

# 県立高等学校専攻科の今後の方向性に関するパブリックコメントについて

平成17年6月17日  
高等学校課

県立高等学校専攻科の今後の在り方について、次の2つの考え方（ ・ ）について、パブリックコメントを募集した。（資料参照）

## 1 意見募集したテーマ

### 各県立高等学校専攻科の縮小・廃止について

鳥取東高等学校専攻科	平成18年度から募集停止とする。
倉吉東高等学校専攻科	平成18年度から定員を70人（10人減）とした上で、当面募集を継続する。
米子東高等学校専攻科	平成18年度から定員を50人（10人減）とした上で、当面募集を継続する。

### 授業料などの値上げについて

県内民間予備校の授業料などを考慮しながら、平成18年度以降の授業料などの値上げを検討する。

## 2 募集期間

5月25日（水）～6月15日（水）

## 3 応募状況

総数 71件（6月16日現在）

### 各県立高等学校専攻科の縮小・廃止について

住所	東部	中部	西部	不明	計
存続を望む方向での意見	8	19	24	6	57
廃止を望む方向での意見	2	2	4	1	9
その他の意見	0	1	3	1	5
計	10	22	31	8	71

### 授業料などの値上げについて

住所	東部	中部	西部	不明	計
値上げには反対の方向での意見	1	1	2	0	4
値上げはやむを得ないとの方向での意見	1	4	7	0	12
その他の意見	1	0	2	0	3
計	3	5	11	0	19

#### 4 主な意見

##### 各県立高等学校専攻科の縮小・廃止について

###### 《存続を望む方向での意見》

専攻科は規則正しく生活し、ゆとりを持って様々な勉強ができる環境である。仲間と競争しながらも、共に励まし合うことのできる環境は是非残すべきである。

専攻科は、受験に一度失敗した者が、“学ぶ”ということを変えて考えたり、自分たちの進路や生き方を考えたりする場となっている。

生徒の中には経済上、予備校に行くことが困難な場合も多くあり、民間の利益優先の視点だけで、鳥取県の行く先を担う生徒の進学機会を狭めてしまっている。

予備校は、専攻科をなくすことに目を向けるのではなく、予備校の実績をあげ、県外の予備校に行かなくてもすむように質を高めることを考えるべきである。

###### 《廃止を望む方向での意見》

予備校がなかった専攻科設置当時と異なり、受験生を取り巻く環境は大きく変わった。専攻科の目的は充分果たしたので、廃止すべきである。

県の財政が苦しい中、一部の生徒が自分の希望する大学に入るために、公費を使って支援する必要があるのか。民営化が求められているのに、教育関係だけを不問にするのはおかしい。

専攻科があるために「4年計画」で合格を目指すという甘えが、教員にも生徒にもあり、漫然と一年を過ごしている。

専攻科は、設置校の出身者が多く占めており、特定の高校の生徒に恩恵が偏り過ぎていて、不公平感がある。

###### 《その他の意見》

経済環境の二分化から専攻科を必要としている人の実態を把握する必要がある。また、受験技術を向上させれば、浪人生は減らせ、ひいては、専攻科や予備校に行く生徒を減らせる。

専攻科廃止が財政的な面を脱しておらず、教育を受ける権利を保障する問題として注意を払い、検討すべきである。

##### 授業料などの値上げについて

###### 《値上げには反対の方向での意見》

大学進学を目指す生徒の保護者にとって、この不況下での経済的な負担増は苦しく、現状維持を願う。

###### 《値上げはやむを得ないとの方向での意見》

授業料は安いにこしたことはないが、予備校との均衡もあり、段階的に引き上げてよい。

県の苦しい財政の中、全国唯一の特別な制度であれば、値上げもやむを得ない。

###### 《その他の意見》

民間に合わせて全国的に高くするのではなく、入学者の収入制限を設定したり、保育料のように収入によって授業料を設定するなどの方法を考えるべきである。